

輸出事業計画

※申請者名：株式会社芦別RICE 品目：コメ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

・近年、日本国内における主食用米在庫が過剰気味となる中、販売価格が下落傾向にあるため、海外も含めた販路の複線化により、生産者の安定収入確保を目指している。

・海外での日本食ブームを追い風として、北海道産米/芦別産米のPRをしていきたいと考えたことから、海外への日本産米輸出に取り組んでいた輸出事業者と平成28年より取り組みを開始。

【課題】

・安心・安全な生産体制の構築に取り組んでいるが、海外産米に対する価格競争力を確保するため、今後は更なる低コスト化や省エネも考慮しつつ、品質・食味の向上を目指す必要がある。また、在庫管理をシステム化し、生産段階からの流通の見える化が必要となっている。

・輸出拡大に向け集荷量拡大を図る必要があるが、集荷業務のマンパワー確保、ならびに輸出用米を保管するための冷蔵倉庫の確保が難しくなっている。

・外食事業者ならびに最終消費者に対し、日本産米使用によるメリットを訴求していく必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

・病虫害発生予察情報を基にした適期防除や、土壌診断結果/生育診断を踏まえた施肥の徹底を引き続き実施する。また、希望する生産者については、田植同時除草剤散布機など、農薬同時処理ができる機械も令和7年までに導入し、人件費などのコスト削減に取り組む。

・令和7年までに在庫管理システムを導入し、煩雑な管理作業の簡素化・省力化を図る。

・道内流通業者/倉庫会社とも連携しながら集荷・保管の分業化を推進し、輸出増加に耐える体制を構築していく。

・データを用いながら海外産米と日本産米の違いを外食事業者や最終需要者に数値として訴求していく。また、北海道米のもつ特徴をPRすることにより、更なる販路開拓を図っていく。

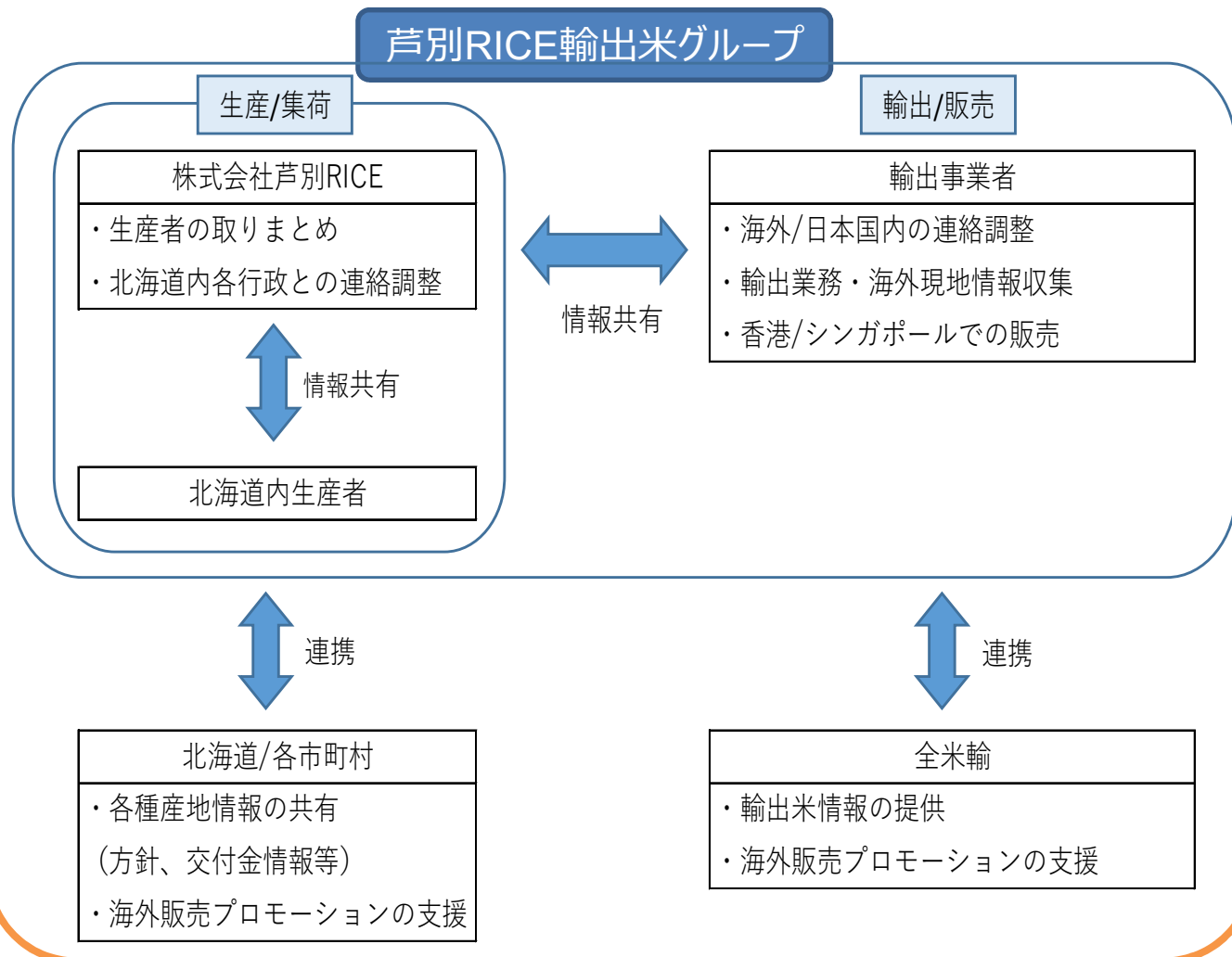
・行政や関係業者との協業により、生産面や流通面での効率化を図り、全体でのコスト低減に取り組んでいく。

輸出事業計画

※申請者名：株式会社芦別RICE 品目：コメ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

- ・芦別ライス・輸出事業者と綿密に連携することで、現地のニーズや状況を生産側へ提供し、ニーズに沿った生産体系を構築する。
- ・各行政団体とも綿密に情報共有し、官民一体となって産地育成を行っていく。



4. 輸出目標額

輸出品目：コメ

		現状 (令和3年)	目標年 (令和7年)
地区： 北海道	販売額(千円)	110,000	150,000
	輸出量 (t)	700	1,000
	輸出先国	香港/シンガポール	香港/シンガポール